

## 希望館卒業生からの手紙

30代前半・男性。2014年1月卒業。

私が希望館に入居したのは、平成25年3月でした。その時の私は定職に就いておらず、派遣での仕事や日雇いの仕事をして生活していました。

このままではいけないと思い、ある程度のお金を貯めてアパートでも借りて、ちゃんとした仕事を探そうとしていた矢先に、お金を落としてしまい、精神的ショックから立ち直れず、派遣の仕事も日雇いの仕事もする気が無くなり、とうとうホームレス状態になり、困っている時に、釜ヶ崎支援機構で大阪希望館の存在を知り、そこで「もう一度スタートからやり直した」と思い、入居しました。

希望館に入居して4カ月してぐらいから、私の場合は就職活動をしたのですが、私は今までまともに就活というものをした事が無かったので、履歴書の書き方から、面接の受け方などの体験がほとんど無く、面接を受けた時、最初の頃は大変でしたが、数をこなすと、ある程度はなれてきました。

ですが数をこなしても、私の元に届くのは不採用の通知ばかりで、正直1回は気持ちが折れ、ちょっとの間は就活ができない状態でしたが、時がたつにつれ、またがんばろうと思い、また就活をするのですが、やはりなかなか決まりませんでした。

しかし、正社員に登用するというパートの仕事を、とりあえず受けておいたのが決まり、そこで働くことになります。OKをもらったパートの仕事は、プラスチック成型の会社での製材でした。初めてやる仕事ですので、最初のうちは、まったく材料の種類すらもわからなく大変でした。

今ではもう働き始めて6カ月たち仕事にも慣れ、だいぶヤリガイができてきました。それに2月から正社員になりました。2月中頃から今月にかけて、とても忙しく、残業の日々が続いています。

希望館には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(2014年3月22日)



地域の困窮者に対する就労訓練事業  
(大阪市立城北公園の菖蒲園での雑草抜き)

### 運営協議会の取り組み

【事務局会議】毎月1回第3金曜日

4月19日。5月17日。6月21日。7月19日。  
8月23日。9月21日。10月18日。  
11月15日。12月20日。1月17日。  
2月21日。3月14日。合計12回開催。

【第5回総会・設立4周年記念集会】

2013年7月27日(土)午後 豊崎東会館  
・沖縄民謡 NPO ぽぽ風「なんくるないさ〜」  
・報告「安住の地を地域に拓く」  
(社)支縁のまち羽曳野希望館

【生活困窮者支援勉強会】

2014年2月8日(土)午後 天神橋温泉  
「報告」  
・五石敬路 大阪市立大学大学院准教授  
・武市佳代 大阪市北区生活支援課長

### 【相談案内】

◆ OSAKA チャレンジネット フリーダイヤル 0800 - 200 - 0656

月～金曜 10:00～18:00 (祝日を除く)

◆ 大阪希望館相談センター 06 - 6374 - 0225

月～土曜 9:00～17:00 (祝日を除く)

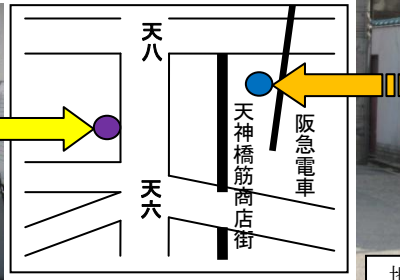
\* チャレンジネットのフリーダイヤルは、大阪府内からだけ通じます。

\* 大阪希望館への入居相談は、チャレンジネットでおこなってください。

## 大阪希望館の支援資源



相談センター(事務所兼)



支援用居室



地域活動センター(旧天神橋温泉)



談話室



支援用居室と談話室は、相談センター近くで、アパートなどで10室を借りて運営しています。



### 昆支王国際シンポに 協力しました。

2014年3月21日に羽曳野市で開かれた「昆支王(こんきおう)国際シンポジウム『存在』昆支王を語る」に協力しました。昆支王国際ネットワーク主催で、支縁のまち羽曳野希望館が共催としてかかわっています。

羽曳野には大きな古墳群があります。その中心に位置するところに、飛鳥戸(あすかべ)神社があります。この神社は、飛鳥時代に朝鮮半島の百済の王子だった昆支王を祀っています。昆支王が、日本に来て「近つ飛鳥」の地に住んだからです。昆支王は、のちに百済王となった武寧王(ぶねいおう)の父でもあります。

シンポは、古代の朝鮮半島と日本の交流を、現代に引き継ごうという取り組みです。大阪希望館では、ステップ就労事業のスタッフ2名が、古代衣装に身を包んで、会場案内を務めました。



### 5年間をふりかえって

2009年の年明け、前年のリーマンショックと「派遣切り」の余波の中、いつまで続けられるかもわからないまま、大阪希望館を開設するために走り出しました。4カ月で当事者を受け入れられるようにするための、怒涛のような日々を思い出します。

それから5年、小さいながらも支援の灯を消さず続けてこられたのは、大阪希望館とそこに入居する若者たちを受け入れてくださった地域の方々、寄付を続けたり活動の趣旨を伝え続けてくださった方々、またひとつの支援スタイルとして認めてくださった行政や福祉にたずさわる方々など、多くの方々のご理解とご協力があったからだ感謝しています。

路頭に迷った若者たちの数に支援資源が追いつかなかった、嵐のような当時と比べて、風雨はおさまったかのようにも見えます。ですが、じつは当時よりも、どんよりとした雲が、低く厚く空をおおっているように思えます。

いまは、「ひとり暮らしから路頭へ」追いやられた若者たちだけでなく、「困窮した実家がかえきれなくなって路頭へ」追いやられて希望館に入った若者たちもいます。高齢の親の年金と、40代の子供の低賃金で不安定な仕事の収入で、やっと一家の生計が成り立っている家庭から、就労訓練に通ってくる人たちもいます。

路上→ネットカフェ→実家と、いる場所は多様化しても、そこで孤立し困窮している人たちの姿は、今も変わらず続いています。

また、「何人も人がいるだけでしんどくなる」と、就労訓練に参加できなかった人、入居後すぐに黙って希望館から出てしまった人もいて、彼らとどうすれば関係をつくれるのか、課題もたくさん残っています。

つぎの5年間、「路頭に迷った若者たち」への支援の灯を守りながら、活動のウィングを地域の生活困窮者へ、実家や居宅にいる若者たちへ、孤立した高齢者などへと、さらに広げていかなければと思っています。

これからもご支援よろしくお願ひいたします。

運営協議会事務局長 沖野 充彦

【寄付金受入口座】 近畿労働金庫 本店 普通 7953734

郵貯銀行 00980 - 8 - 216664 いずれも、大阪希望館運営協議会